

一般社団法人 日本時計学会
2025年度 事業計画書
(自 2025年1月1日～至 2025年12月31日)

I. 事業計画

1. 学術講演会，研究会，見学会等の開催

[1] マイクロメカトロニクス学術講演会

マイクロメカトロニクス学術講演会を9月中旬，中央大学 後楽園キャンパスで開催する。
研究論文発表12件程度を予定する。

[2] 研究会

時計及び時計応用技術に係わる最先端のテーマを選定し，専門の講師を招いての研究会を，4月及び11月の2回，中央大学 後楽園キャンパスで開催する。
また，特別研究会を年2回程度開催する。

[3] 見学会

会員の研修のため，産業界，特に時計技術に関連する分野において顕著な業績を挙げている工場，研究機関等の見学会を6月に行う。

2. 時計及び時計応用技術に関する研究調査分科会

時計及び時計応用技術に関する研究調査を行うため，過年度より進行中の研究調査分科会1件を継続して進める予定である。研究調査分科会の成果は報告書または学会誌の記事によって報告する。

[1] 名称：「機械式時計の組立・修理を行うAIロボット」

(主査：木村 南 東京都立産業技術高等専門学校非常勤講師・本学会理事)

「機械式時計の組立・修理を行うAIロボットの可能性」をテーマとした先端技術研究・調査を継続して実施する。

2025年度はAI技術の応用事例・AIロボット研究について特別研究会を実施する。

[2] 時計技術解説

機械式時計の技術を後世に残すことを目的に，「時計技術解説シリーズ機械式時計」として，学会誌マイクロメカトロニクスにおいて12回の連載を実施する。

2025年度は，マイクロメカトロニクス Vol. 69, No. 232 と Vol. 69, No. 233 において，2回の連載を実施する。

3. 学会誌，学術図書等の刊行

[1] 学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年2回発行する。

Vol. 69, No. 232 : 2025年6月，250部

Vol. 69, No. 233 : 2025年12月，250部

学会誌を魅力的なものとする取り組みとして特集記事を掲載する。

[2] 学術講演会講演論文集を年1回発行する。

マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集：2025年9月，電子配布

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

[1] 青木賞。

青木賞表彰委員会を設け、2023 年度および 2024 年度の日本時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文の中から、当学会初代会長青木保博士を記念した第 59 回青木賞受賞の対象として研究論文を 1 編選考する。

マイクロメカトロニクス学術講演会の際、第 59 回青木賞贈呈式を行う。

【2】 ベストプレゼンテーション賞

マイクロメカトロニクス学術講演会における優秀な講演発表者に対し、第 8 回ベストプレゼンテーション賞をマイクロメカトロニクス学術講演会の技術交流会において授与する。

5. 内外関係機関等との交流及び協力

【1】 国内機関との交流

国立国会図書館へ学会誌「マイクロメカトロニクス」およびマイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集を納本する。

科学技術振興機構へ学会誌の電子データを提供する。

日本時計学会は平成 18 年 5 月 9 日付けで日本学術会議より協力学術研究団体として指定を受けている。

【2】 外国機関との交流

スイス時計学会 SSC: Société Suisse de Chronométrie との機関誌等の情報交換を行なう。

【3】 関係学会との協賛

研究会および学術講演会を、一般社団法人エレクトロニクス実装学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人電気学会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人日本設計工学会、一般社団法人日本ロボット学会、公益社団法人日本磁気学会等、関係学協会の協賛を得て開催する。

II. 会議に関する事項

1. 理事会を 6 回以上開催する。
2. 定時社員総会を 3 月に開催する。
3. 各研究調査分科会を 4 回程度開催する。
4. 企画委員会を 3 回程度開催する。
5. 青木賞表彰委員会を 2 回程度開催する。
6. 編集委員会を 4 回程度開催する。